

赤岩かわら版

～第 5 号～

赤岩かわら版編集局

● 重伝建「赤岩」ふれあい感謝祭 ●

お疲れ様でした。

9月6日(土)、「10年後の赤岩を考える会」・赤岩地区共催で、「ふれあい感謝祭」と「二百十日祭」が開催されました。世界遺産推進への住民意識を高め、県民や首都圏住民の「赤岩」来訪の増加を図って企画されたものです。お天気が心配されましたが、JR「ぐるりん吾妻号」のお客様など村内外から100名ほどの人たちが訪れ、「おかいこの里」赤岩の歴史と文化と人情との「ふれあい体験」をしました。

世界遺産推進室による絹遺産群のパネル展示に、「薄根の大クワはどこら辺かな？」と興味深そうに見入る人。富岡製糸場世界遺産伝道師協会の体験コーナーでは、ぬり絵や繭のクラフト作りに童心にかえって熱中している人たち。“こころの赤岩”の作詞・作曲の篠崎洋子さん(シルクのドレス着用)には、ミニコンサートを開いていただきました♪ 村長さんや赤岩の人たちが飛び入りでのど自慢を披露し、大いに盛り上げました。

おかいこ部会は、「どむろん家(ち)」で組ひもの体験や座繰りの実演。部会の人のお話によると、「赤岩の繭から『行燈』や『組ひも』ができ、『まゆ玉サック』など美容にもなることに感心していた」とのこと。昭和二桁会では、焼きトウモロコシ(300本)とバーベキュー(40kg)を来訪者と住民にプレゼント。皆さん美味しそうにほうばって、ほぼ完食。食部会は、おにぎり(240個)とあん・みそ饅頭(各150個)の販売。そして、完売。担当者が「来訪者の方に『今年もジャオジ味噌饅頭をやっていますか?』と聞かれました」と嬉しそうに話していたのが印象的でした。また、「はとバスツアーで来たのですが、また赤岩を見たくてぐるりん吾妻号に参加しました」というお客様がいたとのこと!! (ガイド部会談)

吾妻県民局ならびに役場の皆さん、蒸し暑い中、奮闘していただきありがとうございました。途中、「猿軍団」がリンゴ畑を荒らしているのを撃退したり、夕立にあたりとハプニングがありました。4時過ぎからの二百十日祭が一日の出来事をサカナに遅くまで続けました。



伝道師協会の体験コーナー。ついつい夢中になって口出し中…



純六合村産のヤサイの大安売りデヘス! (水車管理組合)



おにぎりは、キビゴハン♪♪漬物はサービスですよ!

■「おかいこ部会」会長さんからのご挨拶

「今年もお蚕の飼育に協力して頂きましてありがとうございました。」

◇ 「赤岩」ふれあい感謝祭に思う ◇

群馬県世界遺産推進室 土屋 真志

思い返せば、昨年8月の「シルクカントリー in 赤岩」開催について住民の方々に交渉に行く前、重伝建選定から様々な行事が重なり赤岩の人たちが疲れているのではないかと懸念が付きまとっていた。



しかし、「シルクカントリー in 赤岩」の期間中に住民の皆さんと酒を酌み交わす機会に恵まれ、住民の皆さんの熱い思いに触れることができ、また、閉会の挨拶で篠原会長が「永い赤岩の歴史の中で、全戸が参加したイベントはたぶん初めて。涙が出るほど感激している」と挨拶された。当初の心配は払拭され、疲れも見せずに喜ぶ赤岩の方々の姿に私自身も感激した。

そして今年、シルクカントリーは別の場所で開催する方針であったが、村・10年後の赤岩を考える会・吾妻県民局が共催して〈重伝建「赤岩」ふれあい感謝祭〉を初めて開催することになったという。この迅速な対応のすばらしさは、地元住民と行政との対話や協働がうまくいっていることの象徴に他ならないだろう。



祭の中では、昨年のシルクカントリーから始まった「座繰り」や「組ひも」に取り組む女性方も「どむろん家」で奮闘していた。「ふれあいん家」の前で“こころの赤岩”の歌をつくった篠崎洋子さんの伴奏で歌う山本村長(写真)と関さん、ハーモニカを吹く安原さんなどを赤岩の皆さんが囲んで盛り上がった。盛り上がる住民の方々の笑顔を見て、私は「赤岩はいいところだなあ」と改めて感じた。

昨年のシルクカントリーにおけるシンポジウムで清水慶一先生が、「赤岩は普通なところがいい」と表現された。みんな開けっぴろげな性格で、人が遊びに来れば親戚のように大歓迎。カギもかけない家々は、昔ながらの養蚕農家群。30年前くらいまでは群馬県のどこにでもあった「普通の田舎」がここにはある。

近年は田舎暮らしを特集したテレビ番組が多くなった。これは日々の忙しい都会の生活に追われる日本人が、以前あったような田舎暮らしの中に心の癒しを求めている現われだろう。赤岩には疲れた現代人が求める「かつての日本らしい普通の田舎」が確かにある。これからも、赤岩を訪れる人々は、赤岩の皆さんの笑顔に触れ、きっと自分の心のふるさととして赤岩を何度も訪れるようになるだろう。

〈「赤岩」ふれあい感謝祭〉で見た明るく元気な多くの笑顔は、ゆったりとマイペースで進む赤岩が100年先も心癒される「普通の田舎」であることを確信させる笑顔であった。

TTT

■ 来訪者情報

9月26日(金)	松井田古文書研究会	10月9日(木)	群馬婦友会
10月16日(木)	前橋ボランティア協議会	11月6日(木)	富岡市観光協会
11月6日(木)	群馬県高等学校教職員退職者会	11月7日(金)	放送大学前橋学生サークル

■ 編集後記

「ふれあい感謝祭」が終わった。今回は世界遺産推進への住民意識の高揚と来訪者増加ということであった。住民が皆参加して和気あいあいと何かをやる、そして来訪者には笑顔で迎えて、普通の暮らしの赤岩を体験してもらおう。赤岩の人たちの普段のままに接していけば、ベストではないかとふと感じた。(素)